

対象国の条件: 無償資金協力「森林保全計画」対象国を優先とする

研修コース番号: J1804215

案件番号: 1884732

主分野課題: 自然環境保全/持続的自然資源利用

副分野課題:

使用言語: 英語

**案件概要**

途上国の森林減少・劣化に由来する温室効果ガスの削減 (REDD+) は、国際社会の喫緊の課題であることは認められているものの、途上国ではそのために必要な森林資源の動態把握の体制や人員が整っていない。また人材育成にも課題を抱えている国が多い。本研修では、森林資源の動態把握のための基礎的なリモートセンシング技術を習得し、自国のデータベース作成に必要な基礎的なGIS技術を習得することを目的とした「技術習得」研修である。

目標/成果	対象組織/人材	
<p><b>【案件目標】</b> REDD+の国際的な議論を踏まえた森林資源動態把握に必要な、基礎的なリモートセンシング技術及び知見が習得される。また、リモートセンシング技術を活用し、自国におけるデータベース作成又は活用に必要な基礎的なGIS技術を習得される。</p> <p><b>【成果】</b> 1. 自国の森林管理に関する現状と課題を整理する 2. リモートセンシング技術を活用した気候変動緩和策 (REDD+)に関する最新の知識を習得する 3. リモートセンシングの基礎的な理論および技術について理解する 4. 森林を対象としたリモートセンシングの活用に関する知識と手法を習得する 5. 森林を対象としたGISを実際に活用するための知識と手法を習得する 6. 本研修で学んだ各種技術を活用し、自国における森林資源動態把握のためのデータベースを作成し、自国での課題解決への一助とする</p>	<p><b>【対象組織】</b> 森林資源管理に係る行政機関、研究機関、教育機関、又はREDD+に係る行政機関、研究機関、教育機関</p> <p><b>【対象人材】</b> 1. 森林資源管理に係る行政機関、研究機関、教育機関において、リモートセンシングやGISを有する部署にいる技術者・研究者、REDD+に係る行政機関、研究機関、教育機関において、リモートセンシングやGISを有する部署にいる者 2. 1における実務経験が3年～5年程度の者 3. PCやOfficeソフト (ワード、エクセル、PPT) の基礎的な操作が出来るもの 4. 十分な英語能力を有する者</p>	
<p><b>内 容</b></p> <p>1. カントリーレポート作成・発表 2. REDD+に関する国際的議論の動向、国家森林モニタリングシステムの動向と取り組み事例、JICAとJAXA連携の紹介、ALOS2 (Palsar2) の紹介、研究フィールド視察、民間企業視察、先行プロジェクト紹介 3. リモートセンシングの基礎知識: 分光特性、センサー種類、データの特徴、画像分類の仕組み、指標の説明、利用できるソフトウェア 4. リモートセンシングの技術習得: データの事前処理、土地被覆図の作成、指標の計算と解釈 5. GIS技術の習得: GISソフト、データの基礎知識、森林の炭素蓄積量のモデルを用いた生態系サービスの地図化技術と意思決定への活用、データ管理機能 6. ③～⑤で習得した技術を活用するため、森林資源モニタリングのためのデータベースを設計。そのリモートセンシング、GIS、データベースの知識を用いて、自国での課題解決への一助とする</p>	<p><b>本邦研修期間</b></p> <p>2018/8/19～2018/10/6</p>	
	<p><b>担当課題部</b></p> <p>地球環境部</p>	
	<p><b>所管国内機関</b></p> <p>JICA北海道 (札幌)</p>	
	<p><b>関係省庁</b></p>	
	<p><b>実施年度</b></p> <p>2017～2019</p>	
<p><b>主要協力機関</b></p>	<p>学校法人 酪農学園大学</p>	
<p><b>特記事項 及び ホームページ</b></p>		